



有限会社すみれ建築工房 20周年記念 & 株式会社四方継 社名変更お披露目パーティー

パーティーの最後には従業員全員、一言づつ今後の抱負を披露させていただくと共に、10年以上の勤続者に表彰が行われ、工事部から酒井、姫井、森田の3名、設計部から三間、松下の2名に感謝状とともに株式の一部譲渡が行われました。

そして業者様の暖かい計らいにより、高橋にはお嬢様からの感謝の言葉と花束が。照れ笑いを浮かべていましたが、パパ社長の目にも光るものが滲んでいたのは間違いありません。



2020年1月19日、神戸市中央区のホテルにて、従業員とその家族25名、約110名の招待者の皆様にお集まりいただき、「有限会社すみれ建築工房20周年記念&株式会社四方継社名変更お披露目パーティー」が盛大に行われました。代表の高橋自らが司会進行を行い、社員の子供達も参加してのアットホームな雰囲気が始まると、まずはスクリーンを見ていただきながらこれまでの「すみれ」の振り返りと、社名変更についてのご説明を披露させていただきました。

その後はお世話になっている方々からお祝いのお言葉を頂戴しながらの美味しいお酒とお料理、そして楽しいおしゃべりのひと時。幅広いつながりの皆様との新しい門出に相應しいパワーにあふれた時間でした。これまでご縁を頂いている皆様全員をご招待させて頂きたいところでしたが、せめてご報告の記事で感謝をお伝えさせていただきたく高橋の満面の笑顔をお届けさせて頂きました(笑)

ト堂え
ポいう
しつお



新たな挑戦、新たな習慣。

株式会社四方継 代表取締役
高橋 剛志

今年になり社名変更、新規事業部の立ち上げと新たな挑戦をしています。その他にも個人的に新しい習慣に取り組んでいます。その一つに毎日、

論語の素読

を行っておりまして、2千年以上も読み続けられている東洋哲学のバイブル的存在の古典の奥深さ、新鮮な気づきがあることに日々驚いています。論語は20の章からなる、孔子の言葉を弟子たちが書き残した孔子の語録で、非常に言葉が少ない書物です。単語や文字の意味、孔子の弟子をはじめとする登場人物やその背景を知らなければ読解出来ない非常に難解な読み物です。



背景にある歴史や登場人物の人となり調べながら読み解くのが本来は正しい読み方だと思いますが、膨大な時間がかかることからこれまで多くの解説本が書かれています。その中でも私が最も心を震わされたのは

下村湖人著の『論語物語』

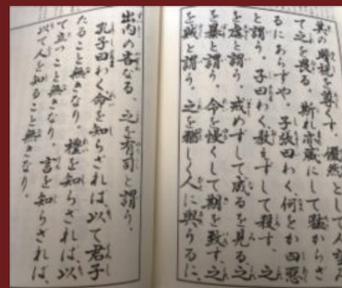


で、難解な論語が孔子の人生をなぞる小説仕立てになっており、読むと論語に書かれている分なりにくい文が鮮やかな色彩を放って映像として浮かび上がり、ストーリーが脳裏に刻み込まれます。毎朝論語の素読をするとそれらのシーンが思い出されて難しく感じられていた本文の理解が深まるのは衝撃的に良い体験でした。

下村湖人さんの論語物語は人生の真理を求め、人としての在り方に真摯に向き合う姿勢がその文脈から感じられ、一種の凄みさえ感じさせられます。その論語物語に描かれているエピソードの数々は、有名な格言になつている孔子の言葉をすぐ目の前で本人から聴かされている様な感覚に陥り、

仁・義・礼・智・信の五常

知・仁・勇の三徳の重要さを繰り返し叩き込まれ、人としての在り方を自ら厳しく正すことこそが重要であるのだと深く得心させられます。



経営の事など何も分からないまま、大工から起業してこれまでの二十年間、多くの書籍を読み、様々な学びの場に足を運び、暗中模索の中、走りながら事業体制を整えてきた中で私が見出した経営哲学、商売の原則は「金だけ、自分だけ」の価値観を持つ事業者には人も仕事もお金も集まらないという事であり、その逆の

「未来につながる、喜ばれる、世の為、人の為になる」

価値観を如何にスタッフと共有して実業に落とし込み、実践するにかかっているという事でした。結局、論語に書かれた孔子の教えにその根本的な理論は全て書かれてあり、改めてその偉大さと、2千年以上の時を超えても人間の真理は変わらない事実に驚嘆すると共に、私がかこれまで積み重ねてきた学びが間違っていないのだと勇気をもらえています。今更と思われる方も多いかと思いますが、東洋哲学のバイブル、論語を今一度、手にとってみられては如何でしょうか。

